ネットワーク

本源へ、世界へ

東北大学文学部
同窓会会報
2011年9月
vol.4

2008年に文学部同窓会に公式な事務局が誕生しました。これを機に、同窓生と教職員と在学生のネットワークを確立すべく、冊子を発行しています。年1回、定期的に発行していきますので、情報交流の場所として、発言の場所としてご活用ください。

5月6日、文学部の入学式は1分間の黙祷で始まった

東北地方太平洋沖地震（“東日本大震災”）を乗り越えて

2011年3月11日14時46分、三陸沖を震源地として東北・関東地方を襲ったマグニチュード9.0、最大震度7の地震と津波は、青森・岩手・宮城・福島・茨城という太平洋岸地域を中心に未曾有の被害をもたらしました。8月下旬現在、死者1万5700人、行方不明者4500人といわれています。

幸いなことに仙台市中心部に被害は少なく、東北大学も施設・設備等に被害があったものの、大学業務も授業も通常の状態に戻りつつあります。5月6日、学部ごとの入学式・オリエンテーションによって新年度が始まりました。そして7月27日・28日には、恒例のオープンキャンパスにより全国の高校生に東北大学が健在であることをアピールしました。（次ページに詳細掲載）

7月27日・28日、川内南の文系4学部キャンパスも全国の高校生で賑わった

「考えるということ」vol.6が発行されました。

東北大学文学部・文学研究科の情報誌として発行している「考えるということ」の第6号が2011年7月中旬に発行されました。

東北地方太平洋沖大地震（“東日本大震災”）という未曾有の天災を経験して、大学の知に何ができたのか、今後何ができるのか、何をすべきなのかを考え始める内容となっています。

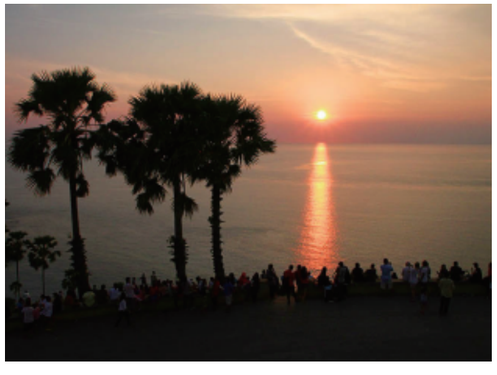
第６号の主な内容

▶巻頭特別対談…Ｐ２～11
心理学・阿部恒之教授＆哲学・野家啓一教授
“東北地方太平洋沖大地震”に直面して改めて言葉の力について考えた
▶歴代研究者メモリアル⑥…Ｐ15～18
1936-41年、哲学とドイツ文学講座を担当した
カール・レーヴィット
▶文学部の研究紹介⑥…Ｐ19～25
歴史科学　柳原敏昭教授
『中世日本の周縁と東アジア』の成果から、
さらに豊穣な“地域史”へ
▶文学部ゆかりの宝もの⑥…Ｐ32
多彩な江戸資料も所蔵する　狩野文庫
▶図書館・書店との対話⑥…Ｐ12～14
東北大学生協川内南キャンパス文系書籍店との対話

大震災を乗り越えて、きっと…

『考えるということ』vol.6の巻頭特別対談で阿部恒之教授は、2004年12月に起こったインドネシア・スマトラ島沖地震時の津波被害に関連してタイのプーケットで面接調査などを行ったことにふれています。阿部教授は、この調査の時に見た無残な姿が、6年後の現在には見事なエメラルドグリーンの海にもどり、観光客がパラセーリングを楽しむような姿に変わっていることを強調。この写真は宝物であり、この写真を見ると東北の海も、きっと数年で回復するという希望が湧いてくると結んでいます。

ここに、阿部教授が撮影したプーケットの写真を掲載し、日本の被災地が震災を乗り越え、このような姿に変わっていくことを念じたいと思います。



［発　　行］東北大学文学部同窓会　〒980-8576　仙台市青葉区川内27番1号
tel. 022-795-6087（月・木 午前10時～午後4時）　fax. 022-795-6087　［URL］http://www.sal.tohoku.ac.jp
［発行年月］2011年９月

©東北大学文学部同窓会

5月6日、1カ月遅れで新年度がスタートしました。

5月6日、各学部別に分かれて学部生248名、大学院生259名の入学式が行われました。文学部に関しては、13時から川内北キャンパスのマルチメディア教育研究棟講義室で、黙祷によってスタート。冒頭、井上明久総長はビデオメッセージで、東日本大震災の中でも東北大学では被害が少なく、安全を確保して新年度がスタートしたことにふれながら、一・「現在為すべきことを為す」こと、二・「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」の東北大学の覚悟と決意を自分のものにすること、三・主体的に学び、辛抱強く果敢に自分の研究を追い続けること、の3つの心構えを強調しました。

続く、大渕憲一文学部長・文学研究科長の挨拶は、静かな口調ながらも強い意思を込めて、新入生を迎えることができた喜びと、ひとりひとりが学問的課題を発見し、それに全力で取り組むことの大切さを語りかけるものでした。

入学式後、新入生は15のクラスに分かれて文学部・文学研究科棟へと向かい、15人のクラス・アドバイザーから東北大学文学部でのキャンパスライフについての細かな説明を聞き、自由な研究室見学から文学部への第一歩を踏み出しました。

そして、7日の全学オリエンテーション、9日の教養教育特別セミナーなどを経て1ヵ月遅れの新年度がスタートしたのです。

井上総長によるビデオメッセージ

挨拶する大渕学部長

7月27日・28日、オープンキャンパスで健在ぶりをアピール!!

夏休みに入った7月27日・28日、恒例のオープンキャンパスに、全国の高校生が集まりました。大渕憲一学部長、座小田豊・森本浩一副学部長の挨拶、金子義明・小野善彦・泉武夫・沼崎一郎教授による「学部案内」に続いて、下記のような「公開講義」を開催しました。また、時間内に自由に出入りできる「研究室訪問」「大学院説明会」を開き、文学部の多彩な学習・研究内容をアピールしました。

■オープンキャンパス「公開講義」のテーマ

- ●永井彰准教授（社会学）
  社会学とはどのような学問か
- ●鹿又喜隆准教授（考古学）
  人類はどのように生きてきたのか
- ●柳原敏昭教授（日本史）
  日本列島史のなかの平泉
- ●齋藤倫明教授（国語学）
  日本語の文法と日本語の文法論
- ●浜田宏准教授（行動科学）
  モデルでみる社会
- ●横溝博准教授（国文学）
  貸す・借りる・写す－平安文学の伝わりかた
- ●佐藤弘夫教授（日本思想史）
  異界の思想－花子さんがトイレに出没するわけ
- ●直江清隆准教授（哲学）
  私たちは知を信じることができるのか

多彩な公開講義

自由に出入りできる研究室訪問

オープンキャンパス受付

大震災に関するご報告とお願い

文学部同窓会会長　大渕　憲一

本年3月11日の東日本大震災においては、同窓生の皆様の中にも被害を受けられた方が多数いらっしゃるかと思います。その方々には、心からお見舞い申し上げます。また、同窓生の皆様には、東北大学文学部の被災状況についてご心配をいただいているものかと存じます。このご挨拶では、震災に関してご報告を申し上げるとともに、合わせて同窓生の皆様方にお願いを申し上げたいと思っております。

今回の震災では、大変痛ましいことに、東北大学の在校生並びに入学予定者合わせて3名が亡くなりました。また、報道などでご存じの通り、東北大学は建物・施設に甚大な被害を受けました。その復旧は国の第2次、3次の補正予算によるところから、その早急な成立と執行が望まれるところです。文学部の建物も一定の被害を受けましたが、教室などの応急処置を行い、1月遅れの5月から授業を始めることができました。その後も余震は続きましたが、キャンパスも次第に落ち着きを取り戻し、8月初め現在では文学部の教育・研究はほぼ平常に復しつつあります。

文学部は、幸い人的被害はありませんでしたが、ご家族の被災によって就学困難となった学生が30名ほどいます。こうした学生は全学で600名ほどいるとのことです。彼らの経済的支援が当面の課題の一つで、国は学生寄宿舎の建設と授業料免除を、東北大学は寄付金から彼らに対する奨学金の給付を決めました。しかしこれでは不十分なので、文学部では独自の支援策を検討しています。大変ありがたいことに九州大学大学院文学研究院の先生方から100万円のご寄付をいただきましたので、これに私ども教員懇親会からの寄付を加えて、文学部で支援を必要としている学生たちに奨学金の追加給付を行いました。しかし、これらの学生支援は来年度以降も継続して行う必要があり、また、新入学生の中にも同様の事情を抱えるものが含まれる可能性もあります。

こうしたことから、このたび、私どもは同窓生の皆様に、被災した学生の支援のためのご寄付をお願いすることにいたしました。同窓生の方々には昨年も同窓会運営のためのご寄付をお願いしたばかりで心苦しいのですが、ご厚情を賜れば幸いです。ご寄付の手続きについては本誌5頁に記しておりますので、ご覧いただければと存じます。

最後になりますが、同窓生の皆様方のますますのご健康とご発展をお祈り申し上げます。

震災と大学の知的財産

文学部同窓会副会長　菅井　茂

同窓生の中には、今回の東日本大震災で亡くなられた方や被災された方もおられます。お亡くなりになられた御霊に対し衷心より哀悼の誠をささげますとともに、被災されました方々にはお見舞い申し上げます。

東北大学も被害甚大でした。大学全体では建物や施設の損壊が激しく、800億円を超す被害があったと聞いています。また亡くなった学生もおり、住居が全壊または一部損壊した学生は500名以上いるそうですし、留学生の中には日本を去った学生もいるようです。そのような中、5月の連休明けには授業が開始され、不自由な中でも大学の生活はもとに戻りつつあるようです。しかしながら国の予算措置が遅れていて、建物や施設の復旧はなかなか進んでいないようです。東北大学の一日も早い復旧・復興を祈念しています。

ところで、私ごとですが私は若林区に住んでおり、「若林区は巨大津波に襲われ、200人以上が亡くなった」というような報道があったためか、多くの同窓生よりお見舞いのお手紙をいただきました。この紙面をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

実際のところ、若林区の52％が津波で浸水しましたが、そのほとんどは仙台東部道路の東側に限られ、この道路の西と東では天国と地獄のようです。東側は防風林の松が根こそぎ流され、住宅地の家々もほとんどが流され町がなくなりました。田圃はヘドロをかぶり、流されず残った家も1階を津波が突き抜けたり、自動車や松の木が刺さったりしており、さながら空爆にあったような様子です。またこれに対し西側は、外見上は何事もなかったように田圃には緑の草が生え、家々はしっかりと立っています。

このように、仙台市の東部太平洋沿岸部は巨大津波で被災しましたが、西部の丘陵地帯も大地震により大きな被害を受けました。地滑りや地割れ、陥没などで「危険」とされた宅地は約2,000か所にも及びました。

これからの復興には、大学の知が必要と思います。行政と大学・産業界が一体となって復興に向かってほしいと思っています。同窓生の多くの知識や知恵に期待しています。

ありがとうございました。多くの会員の方々より賛助金をいただきました。

昨年9月、『ネットワーク』第3号をお届けするに際し、本会の活動に対する賛助金(1口 2,000円より)をお願いいたしましたところ、322人の会員の方々から、合わせて188万8603円もの御寄付を賜りました(2011年7月末日まで)。心から御礼を申し上げます。ここに、深甚の感謝の意を込めて御芳名を記します(敬称略にて失礼いたします)。

御協力くださった皆様(50音順<平成21年版会員名簿の索引の順>)

相沢雄一郎　青木生子　秋山公男　秋山靖夫　秋山幸男　秋吉亨　浅野幸治　浅野貴士　浅利彰　芦野徹　東義郎　渥美治雄　阿部義平　阿部兼也　阿部道彌　飯倉晴武　飯田義道　飯塚豊　五十嵐敬司　壹岐泰彦　池口康夫　石井浩　石崎克孝　石田馨　井関正昭　板垣省吾　板橋征二　伊藤栄治　伊藤香美子　伊藤貢士　伊藤敏　伊藤智実　伊藤壽昭　稲田仁志　井上公正　井上説史　居上康昭　今泉ヒナ子　岩井経男　岩崎薫夫　植木典子　上野正治　宇佐美道雄　臼井隆男　宇留賀七郎　漆野容子　運天亜紀子　枝本孝子　遠藤恵子　遠藤基郎　及川貴子　王秀芳　王淑芳　大出正博　大竹隆文　大谷宏　大友明郎　大友信一　大友康　大友義勝　岡崎英輔　尾形信次　尾形朝可　尾形良道　小川清　小野寺東一郎　小畑陽一郎　小原直子　小山善久　葛西健司　片野達郎　片平善弘　加藤時男　加藤登之男　加藤正信　加藤瑞雄　金井寿男　金澤亮治　金成英雄　金田諦元　釜田照男　加美山いつ　川合安　川村昭一　菅野祥夫　神原進　菊池禮司　北澤侑雄　北畠修之　喜夛村康一　木村恵美子　木村武　木村俊彦　草眞知子　楠田格　楠佳子　黒滝至　桑原莞爾　桑原義一　小泉恵一　小関廣明　小関昌幸　後藤斉　小塙直紀　小林政吉　小林真登香　駒居貴之　駒込清太郎　小森正信　近藤明　斎藤顕政　斎藤謙一　斎藤超　齋藤隆　齋藤直　三枝圭作　酒井礼子　坂本行蔵　作山幸夫　佐々木淳　佐々木清志　佐々木徹郎　佐々木雅男　佐々木正彦　佐々木靖章　佐々木由利子　笹森健壽　佐藤かおる　佐藤怜　佐藤清三　佐藤隆司　佐藤武義　佐藤辰夫　佐藤弘夫　佐藤文子　佐藤眞理子　佐藤泰　佐藤裕司　真田信治　佐野智子　澤藤稔　三瓶良一　塩野雅代　重田直　茂林友道　篠塚亜津砂　柴公也　柴崎達郎　澁澤良一　島越郎　下河部行輝　下畑勝利　白石和弘　菅井哲夫　須貝行子　杉本幸雄　杉山茂　鈴木岩弓　鈴木英司　鈴木善三　鈴木正己　鈴木正行　鈴木美津子　鈴木安利　鈴木瑠璃子　住宏平　清田文武　関孝一　関茂友　曽我四郎　高野正幸　高野芳宏　髙橋修　高橋賢　高橋禎雄　高橋守雄　高橋幸則　瀧口千尋　武重洋一　竹本幸博　田子明子　但木汎　田中伸拓　田中芳雄　玉川一豊　千坂嶂峰　千葉幸一郎　手島己内　富田幸市　富田幸雄　冨山茂　内藤幹治　永井信一　長倉美恵子　中島茂　中村靖彦　中村了昭　新野直吉　二階堂慧　西方修吾　西園弘隆　西田スエ子　西田秀穂　丹羽信明　沼倉昇　野村茂　波多野稔夫　畑山俊輝　花崎治夫　花登正宏　塙融　早川寿　林雄作　速水虎之助　原田夏子　平岩阿佐夫　平田明美　平山一藏　広瀬智一　樋渡雅弘　深井甚三　福田功二　福田忠夫　福田友之　藤倉琢哉　藤澤和義　藤田孝　舟越芳男　古橋憲一　北条常久　星康博　堀申哉　堀籠雅志　本多明生　本堂寛　米田富英　前田毅　松倉寿　松永隆道　松野達雄　松本和良　間宮啓壬　丸山雍成　三浦孝　三河友紀子　水沢教子　宮沢徳雄　宮澤俊弘　宮園真理　宮舘新吾　宮地佑治　宮本佐和　村井則子　村上かつ　村上真完　村川光一　村木葉子　村田章人　望月英子　本井康雄　森口隆次　柳澤裕子　柳原一徳　矢部一弥　山上英幸　山田恭道　山田俊正　山中順雅　山本達　武村(山本)美幸　横井三夫　横沢活利　吉田裕　米澤辰夫　脇田洋二　和田英信　渡辺一男　渡辺成就　渡辺千春　渡辺洋司　渡部芳雄

以上の281名の方々の他に、41名の会員の方からも賛助がございましたが、この皆様につきましては、振込用紙への記入にて、御氏名の掲載を望まない旨の意思表示等がございましたので、御芳名を挙げておりません。なお、平成21年版会員名簿の発行以後に、改姓をされた方につきましては、旧姓も記しました。また、逝去された会員の方の御遺族からも御寄付をいただいたことも申し添えます(その場合も、会員のお名前を挙げました)。御賛助を賜り、まことにありがとうございました。

そして、今後も、本会の活動の活性化を期して賛助金の募集を続けさせていただきます(同様に1口2,000円より募集いたします)。御協力いただける場合は、同封の振込用紙(口座番号02210-6-5103)を御利用ください。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

「東北大学文学研究科震災復興助成金」への御理解と御協力をお願いいたします。

3頁の会長の挨拶にも記しておりますように、東北大学文学部では、被災によって就学困難となった文学部の学生の経済的支援をたいへん重要な課題と考え、取り組んでおります。そこで、文学部同窓会の皆様にも、御協力を賜りたく、ここにお願い申し上げる次第です。

この寄付金の正式名称は、**「東北大学文学研究科震災復興助成金」**です。

前頁に記した文学部同窓会の賛助金の場合は、このたび同封する振込用紙に必要事項を御記入の上、御入金いただくこととなりますが、これとは異なり、右のような順に御寄付の手続きを進めていただくことになります。この御寄付は、確定申告により税金控除の対象となります(2,000円を超える場合)。

賛助金とは異なり、税金の寄付金控除の対象となるなどの事情から、お手数をおかけいたしますが、御高察の上、御協力をいただけますならばまことに幸甚に存じます。

なにとぞよろしくお願い申し上げます。

1. 同封の寄付申込書に必要事項を記入し、押印の上、文学部会計係宛に御郵送いただきます(郵送用の封筒の御用意と送料の御負担をお願いすることとなりますが、なにとぞよろしくお願い申し上げます)。

【宛先】　〒980-8576　仙台市青葉区川内27-1
東北大学文学部・文学研究科会計係

2. 会計係から寄付を申し込まれた方に振込依頼書をお送りいたします。

振込依頼書により、金融機関にて振り込んでいただきます。(みずほ銀行及び七十七銀行の本店・支店での振込に限り、振込手数料が無料となります)。

なお、金融機関から領収書が発行されます。寄付金控除の手続きをされる場合には必要な書類となりますので、たいせつに保管してください。

3. 御入金を確認いたしましたら、お礼状をお送りいたします。

ご案内

二年に一度の東北大学文学部同窓会・懇親会を、全学のホームカミングデーに合わせて開催いたします。

平成23年10月8日(土)午後6時から、東北大学文学部2階大会議室にて総会を開催し、引き続き同日午後7時10分から、東北大生協川内食堂 Bee ARENA Café(川内北キャンパス、川内郵便局に近いところ)で、懇親会を開催いたします。

御出席いただける方は、郵便またはFAXにて、9月30日(金)までにお知らせください。連絡先は左記のとおりです。

なお、全学ホームカミングデーは次のような予定となっています。

▶2010年10月9・10日に開かれたホームカミングデーの、萩友会総会の様子

全学ホームカミングデーの予定

■東北大学萩友会総会(要事前申込)
11:00 ～ 11:45　川内萩ホール

■仙台セミナー(要事前申込)
13:40 ～ 17:00　川内萩ホール
被災した地域の医療再生をキーワードに、講演やシンポジウムで医療福祉の充実と地域医療の高度化などを探ります。

■在校生と卒業生との親睦会
〈第1部〉12:00 ～ 16:30　川内北キャンパス 川内体育館
〈第2部〉17:00 ～ 19:00　川内北キャンパス 川内の杜ダイニング

■秋の文化フェスティバル
12:00 ～ 13:30 川内萩ホール

■ロビー・パフォーマンス
11:35 ～ 13:10・16:30 ～ 1715　川内萩ホール

■記念コンサート(要事前申込)
17:30 ～ 19:00　川内萩ホール

▲この中には事前申込が必要なイベントがあります。期限は、2011年9月19日(月)です。詳細は、同封のチラシを御覧ください。

[連絡先]
〒980-8576　仙台市青葉区川内27-1
東北大学文学部内　東北大学文学部同窓会
FAX 022-795-6087

学生・教職員の活躍から

News 1 文学部の学生3名が「留学奨励賞」受賞

東北大学には、大学間協定校への留学生を支援する「海外留学奨励賞」の助成制度があります。2010年度は全学12名中、文学部からは3名が受賞し、1年間の留学を体験しました。

カリフォルニア大学　島貫洋平さん(3年)
ウプサラ大学　篠原　希さん(3年)
シンガポール国立大学　尾形真梨さん(3年)

News 2 東北大学出版会から研究成果の出版

2010年10月には、文学部卒・文学研究科修了で、北里大学一般教育部教授・小河原誠氏の『反証主義』、2011年1月には正村俊之教授編『生と死への問い』が、東北大学出版会から出版されました。『反証主義』は、カール・ポパーの思想の体系的な解説を試みたものであり、『生と死への問い』は、文学研究科として取り組んでいる「人文社会科学講演シリーズ」の第五巻であり、世界各地に存在する多様な死生観を論じたものです。

News 3 読売新聞で書評委員となっている野家啓一教授の「2010年の3冊」

読売新聞では毎週日曜、書評欄「本よみうり堂」が掲載されていますが、文学研究科で哲学を専攻する野家啓一教授が書評委員となっています。2010年12月末には、2010年のベストストリーを選ぶ企画があり、野家教授はフランセス・イエイツ著『ジョルダーノ・ブルーノとヘルメス教の伝統』、ジョン・ロールズ著『正義論』、チャールズ・テイラー著『自我の源泉』をあげています。

なお、野家教授は、読売新聞2011年7月3日の書評では、地震、津波、原子力発電所事故に打ちひしがれている福島の「沈黙の地から発する言葉」として、福島県在住の詩人・和合亮一氏の『詩の礫』(徳間書店)、『詩ノ黙礼』(新潮社)、『詩の邂逅』(朝日新聞社)を紹介しています。

News 4 2011年2月、澤村美幸著『日本語方言形成論の視点』が岩波書店から

言語科学専攻国語学専攻分野の小林隆教授研究室は、日本における方言研究の重要な拠点となっており、たとえば岩波書店の『シリーズ方言学』(全4巻2006～08年)は小林教授が責任編集者となって刊行されています。

2011年2月、同じ岩波書店から、国語学研究室で方言研究に携わった澤村美幸氏(文学部卒・文学研究科修了)の最新成果『日本語方言形成論の視点』が出版されました。日本語の地域差が、何によって、どのように形成されるのかということについての深い考察が示されています。

News 5 『日本美術史ハンドブック』、『心理学の視点20』、『ゲーム理論』などが教科書に

2011年5月、震災のために入学式が1ヵ月遅れ、新学期に使用される教科書類もようやく川内の生協書籍店に並びました。そこには、下記のような、文学部・文学研究科の教員の著書も見られました。

阿部恒之教授『ストレスと化粧の社会生理心理学』
泉武夫教授『日本美術史ハンドブック』(共著)
大渕憲一教授・阿部恒之教授『心理学の視点20』(共著)
佐藤嘉倫教授『ゲーム理論』
戸島貴代志教授『創造と想起』
原純輔名誉教授『社会調査』(共著)
正村俊之教授『グローバリゼーション』

震災関連 Topics 1

東北大学防災科学研究拠点で阿部恒之教授の報告

3・11東日本大震災に対して、東北大学では東北アジア研究センターに事務局を置き(事務局長＝平川新・東北アジア研究センター教授：文学研究科修了。文学部助手などを経て、現職)、「防災科学研究拠点」を設立(http://www.dcrc.tohoku.ac.jp/events/kyoten2011/index.html)。人文社会と自然科学の研究者が一堂に会し、地震・津波の構造、原因、被害状況、災害時の社会状況、復旧・復興、防災などについての調査、研究を進めています。

文学部・文学研究科では、阿部恒之教授(心理学)が参画。4月13日の東日本大震災1ヵ月後緊急報告会で「被災者のマナー～被災者の生活と治安～」、6月10日の東日本大震災3ヵ月後報告会で「被災者のマナー2～被災時の混乱と助け合い～」を報告しました。被災後にどんな振る舞い(行列、生活物資の流通、自粛、風評、デマ、犯罪行動、略奪、助け合い等)が見られたかを、自ら見聞したことや日記などの記録によってまとめたもので、詳しい内容については『考えるということ』vol.6の巻頭対談をご覧ください。

9月13日、震災6ヵ月後報告会

9月13日には、仙台トラストタワー5階で、「復興に向けての大学の役割」をテーマに東日本大震災6ヵ月後報告会が開かれ(10～16時)、阿部教授も3回目の報告を行う予定になっています。

震災関連 Topics 2

宮城県歴史資料保全ネットワークで文化財レスキュー

3・11東日本大震災に関しては、同じく東北大学東北アジア研究センター・平川新教授が事務局長の「宮城県歴史資料保全ネットワーク」の文化財レスキューも注目の活動です。

文学研究科修了、文学研究科専門研究員を経て現在、東北アジア研究センター所属の佐藤大介助教も事務局で活躍しており、宮城県内各地の大学、高校、自治体などと連携し、県外からの協力も得て、文化財の救出・復旧・保全等に携わっています。佐藤助教は、前記の東日本大震災3ヵ月後報告会で、「歴史遺産レスキューの三ヶ月―被災地での活動と所蔵者・地域―」を報告しています。

震災関連 Topics 3

カフェ〝震災を忘れず、忘れられないために〟に野家啓一教授

防災科学研究拠点では、7月27日、「カフェ〝震災を忘れず、忘れられないために〟」と題する公開イベントをスタートさせました。研究者と市民とが交流し、震災に関連した話題を話し合うことを目指したもので、文学研究科・野家啓一教授／哲学／東北大学理事、附属図書館長)が参加しての「哲学者に聞く」が、その第1回目となりました。

青葉区中心部のティーラウンジ・ルフランを会場に、紅茶とスイーツを味わいながらの1時間半(18時30分～20時)。野家教授は、司会の医学部・医学研究科・脳科学G-COE(長神風二特任准教授(脳科学G-COE)との対話の形で、寺田寅彦『天災と国防』(講談社学術文庫)、ウルリヒ・ベック『危険社会』(法政大学出版局)、清水幾太郎『流言蜚語』(ちくま学芸文庫)などの紹介、引用もまじえ、キュリー夫妻、アインシュタインらが個人で研究していたスモールサイエンスから、大きな資金が動くビッグサイエンスへと変化すると共に、科学技術の利用に伴う危険も大きくなり、リスクコミュニケーション、リスクリテラシーが必要になったこと、運用に関しては専門家パネルと非専門家パネルが対等のテーブルについて議論を行うといったシステムが欠かせないことなどを語りました。

震災関連 Topics 4

被災地高校生の東北大学での合宿・報告会に行場次朗教授

7月29日、東北大学工学部センタースクウェア大講義室で、電子情報通信学会主催、東北大学電気・情報系共催の「未来世代から見たコミュニケーション科学の魅力と学習意欲向上」研究会の報告・シンポジウムが開かれました。東北各県の被災地の高校生111名(約6割が東北大学志望者)が参加して合宿を行いました。27・28日の東北大学のオープンキャンパスも見学しながら、高校生にとっての「私たちの願い」を議論し、その報告を行い、コミュニケーションを領域とする研究者の講義を聞き、話し合うという内容です。

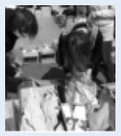
そこでは、文学研究科・行場次朗教授(心理学)が、電子情報通信学会第3種研究会(ヒューマンコミュニケーショングループ／委員長：原島博東京大学名誉教授)という立場もあって、東北大学からのメッセージとパネル討論を司会しました。東北大学加齢医学研究所・川島隆太教授、東北大学電気情報系運営委員・畠山力三教授の発言を求め、高校の教員や大学、学会のメンバーからも意見を開くなか、充実したパネル討論となりました。「若者たちの学びに大人ができること」というテーマにふさわしい討論でした。

震災関連 Topics 5

災害救援ボランティア組織「HARU」で文学部の学生も活躍

3・11以後、東北大学では学生・院生有志による全学的災害救援ボランティア組織として「東北大学地域復興プロジェクトHARU」(http://tohokugakuseifukko.blogspot.com/)が組織されました。

文学研究科・文学部としても、これに賛同し、公式サイトにおいてボランティア活動への積極的な参加を呼びかけ、ボランティア活動に参加する際の注意事項もアピール。文学部文学研究科の学生・院生も、東北大学生の安否確認、東北大学附属図書館での蔵書整理、被災地での支援活動などに参加しています。



Topics 1
2010年11月、青木生子氏が著作集の新刊を出版

2010年11月、東北帝国大学で国文学を学び（1944年法文学部卒）、『日本古代文芸における恋愛』で文学博士となった青木生子氏の『青木生子著作集（補巻2）萬葉余滴』が刊行されました。2009年11月の補巻1「萬葉にみる女・男」に続くものです。

Topics 2
2011年2月、山折哲雄氏が「南方熊楠賞」受賞

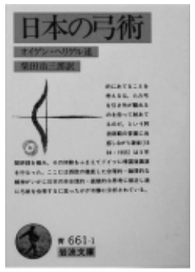
宗教学・民俗学の研究や発言で活躍している山折哲雄氏（1954年文学部卒・1959年文学研究科修了）が、2011年2月、和歌山県田辺市と南方熊楠顕彰会の「南方熊楠賞」を受賞しました。2010年3月『わたしが死について語るなら』、8月『教行信証を読む―親鸞の世界へ』、10月『にっぽん巡礼―漂白の思いやまず』、2011年3月『法然と親鸞』等に、多彩な文筆活動の一端を知ることができます。

Topics 3
2011年、新聞で、週刊誌で中村彰彦氏が書評担当

東北大学同窓生には、1人の芥川賞作家（医学部卒・北杜夫氏）と、3人の直木賞作家（法学部卒・津本陽氏、文学部卒・中村彰彦氏、文学研究科修了・佐藤賢一氏）がいます。この中で、中村彰彦氏は、2011年、読売新聞の文化欄で「解題新書」（3月に一度）、講談社の『週刊現代』で「リレー読書対談」のコーナー（4人でリレー）を担当し、辛口の書評を行っています。読売新聞では6月20日に〈「勁草」政治家なき日本〉と題して3冊を紹介。次は9月中旬掲載の予定となっています。

Topics 4
2011年、岩波文庫「名著・名作再発見」フェアに文学部関係者の本

2011年春、岩波文庫「名著・名作再発見」フェアでは、東北大学関係者の次のような著作が復刊・改訂・増刷されて気軽に読めるようになりました。



齋藤信治（法文学部卒）訳・キェルケゴール著
『死に至る病』
金谷治（法文学部卒・東北大学名誉教授）訳注
『新訂　孫子』
金谷治（法文学部卒・東北大学名誉教授）訳注
『論語』
柴田治三郎（法文学部卒・東北大学名誉教授）訳
オイゲン・ヘリゲル（1924-29年 法文学部講師）著
『日本の弓術』
小川環樹（元法文学部教授）訳
『完訳三国志＜1 ～ 5＞』

中公クラシックス創刊10周年では町田三郎氏の『孫子』の復刊

2011年には、中央公論社が中公クラシックス創刊10周年を謳い、古典的名著の復刊などを行っています。坂口安吾『日本文化私観』、ヤスパース『哲学』等に続いて、町田三郎氏（文学部卒・文学研究科修了。文学部助教授から他大学へ）の『孫子』が復刊されています。

Topics 5
2011年8月、今野勉氏が『金子みすゞふたたび』を出版

震災当初、テレビ放送は企業CMを自粛し、AC（旧公共広告機構）のCMを専らに流したことにも否定的な意見がありました。その中で、〈「遊ぼう」っていうと「遊ぼう」っていう。〉で始まり、〈こだまでしょうか。いいえ、誰でも。〉と終わる、金子みすゞの詩を使ったCMは強い印象を残し、書店にも金子の詩集が並びました。

今野勉氏（文学部卒）は、1995年にNHKスペシャルで『こころの王国　童謡詩人・金子みすゞの世界』というドキュメンタリー番組を演出し（小林綾子・山本耕史主演）、金子みすゞへの注目を高めた人です。その今野氏が、8月、金子が残した3冊の手帳を中心に金子の童謡に迫るノンフィクション『金子みすゞふたたび』（小学館文庫）を送り出しました。

震災関連 Topics 1
2011年5月、木田元氏、山折哲雄氏が震災後へのメッセージ

2011年5月、『新潮45』6月号の「震災後をどう生きるか」という特集で、木田元氏（1953年文学部卒・1958年文学研究科修了）が「技術文明の自壊」を、山折哲雄氏（前述）が「懺悔の心かなしく、山河微動だにせず」を寄稿（山折氏の場合は、「共死」を想え」という連載の第三回としての掲載）。木田氏は、福島県の原子力発電所事故を題材に、ハイデガーの文明論などにふれながら、〈資本や技術の自己運動を止める手段は、ありそうもないようです。〉と記しています。また山折氏は、「東北地方太平洋沖地震」という名称がいつのまにか「東日本大震災」と変わったことについて、〈「太平洋沖」という表現の背後には「太平洋プレート」が不可避の前件として存在し、それが「北米プレート」と緊密に連動しているという事実認識というか世界認識があったはずである〉と、非常に厳密な物言いをしています。

ちなみに、この特集では、東北大学医学部卒業、大船渡市在住の医師・山浦玄嗣氏が「天を恨まない日本人」という原稿を寄稿しているのも注目されます。

また、6月に発行された『思想としての3・11』（河出書房新社）でも、木田元氏は「技術はもう人間の手に負えない？」、山折哲雄氏は「二つの神話と無常戦略」を寄稿しています。

なお、4月に仙台で発行された『仙台学 vol. 11　東日本大震災』（荒蝦夷）には、佐藤賢一氏（文学研究科修了）「光のページェントまで」、星亮一氏（文学部卒）「福島からの報告」、山折哲雄氏「東北の魂は耐えて、震えている」が寄せられています。

震災関連 Topics 2
2011年、ドナルド・キーン東北大学名誉博士が日本永住へ

2011年6月発行の『中央公論』7月号に、ドナルド・キーン氏の「日本国籍取得決断の記」が掲載されています。

キーン氏は、1978年度に文学部の特別招聘教授として教壇に立ち、1997年には文学部において東北大学初の名誉博士となった、日本文学研究者です。『日本文学史』（古代・中世、近世、近代・現代の三部作）の日本語版・英語版をはじめとする多くの著作で知られ、松尾芭蕉の「おくのほそ道」をたどる旅をし、英訳も出版しています。

この稿の中で博士は、震災を期に日本国籍取得、日本永住を決断したことを述べた上で、〈自分がよく知る東北の数々の場所―松島、仙台（私は東北大学で半年ほど教鞭をとったことがある）、そして何よりも私が愛する平泉の中尊寺の被害を案じた。（略）今こそ、もっとも率直なかたちで日本のみなさんと一緒になる、その思いを表明しなければと思ったのである。〉と結んでいます。

2010年度～ 2011年6月に発刊された同窓生の著作の一部から

青木生子氏（法文学部卒）
『阿部次郎をめぐる手紙』（10.9 翰林書房）
『青木生子著作集（補巻2）萬葉余滴』（10.11 おうふう）
青木美智男氏（文学研究科修了）
『深谷勝己近世史論集＜第6巻＞』（10.6 校倉書房）
青山忠正氏（文学部卒・文学研究科修了）
『幕末維新－すっきり読める奔流の時代』（10.7 新人物文庫）
浅田秀子氏（文学部卒）
『シューベルト「冬の旅－冥界のヘルメス」解釈と演奏法』（10.4 星雲社）
有馬哲夫氏（文学研究科修了）
『日本テレビとＣＩＡ』（11.7 宝島sugoi文庫）
『ディズニーランドの秘密』（11.7 新潮新書）
飯倉晴武氏（文学研究科修了）
『日本人のしきたり手帳＜2011年版＞』（10.10 青春出版社）
井口時男氏（文学部卒）
『少年殺人者考』（11.4 講談社）
井之部康之氏（文学部卒）
『富士山－最後の強力・並木宗二郎』（10.7 新人物文庫）
内館牧子氏（文学研究科修了）共著
『ラジオ深夜便こころのエッセー』（11.2 ステラmook）
大角修氏（文学部卒）
『一休さんの般若新経講義』（11.3 学研パブリッシング）
『イーハトーブ悪人列伝－宮沢賢治童話のおかしなやつら』（11.2 勉誠出版）
奥山直司氏（文学部卒・文学研究科修了）
『南方熊楠書翰』（10.3 藤原書店）
川村邦光氏（文学部卒）
『写真で読むニッポンの光景』（10.8 青弓社）
菅野仁氏（文学研究科修了）
『教育幻想－クールティーチャー宣言』（10.3 ちくまプリマー新書）
菅野良夫氏（文学部卒）
『刻印石で楽しむ三大名城の石垣物語』（11.5 新人物往来社）
木田元氏（文学部卒・文学研究科修了）
『偶然性と運命』（11.5 岩波新書）
訳『現象学の根本問題』（マルティン・ハイデッガー 10.12 作品社）
高城高氏（文学部卒）
『函館水上警察』（11.6 創元推理文庫）
『ウラジオストクから来た女』（10.10 東京創元社）
今野勉氏（文学部卒）
『鴎外の恋人－百二十年後の真実』（10.11 NHK出版）
『それでもテレビは終わらない』（10.11 岩波ブックレット）
『金子みすゞふたたび』（11.8 小学館文庫）
佐藤郁哉氏（文学研究科修了）
『本を生み出す力－学術出版の組織アイデンティティ』
佐藤賢一氏（文学研究科修了）共著
『日本の１／２革命』（11.6 集英社新書）
繁田信一氏（文学部卒・文学研究科修了）
『紫式部の父親たち－中級貴族たちの王朝時代へ』（10.11 笠間書院）
高木諄元氏（文学研究科修了）訳
『空海』（10.9 慶應義塾大学出版会）
高橋富雄氏（文学部卒・文学研究科修了）
『高橋富雄東北学論集 第10集（第3部 武士道）』（10.11 歴史春秋出版）
中村彰彦氏（文学部卒）
『OD版 北風の軍師たち（上・下）』（11.6 中公文庫ワイド版）
『幕末維新史の定説を斬る』（11.5 講談社）
『われに千里の思いあり（上・中・下）』（11.5 文藝春秋）
中村靖彦氏（文学部卒）
『日本の食糧が危ない』（11.5 岩波書店）
飛田良文氏（文学研究科修了）共編
『明治期国語辞書大系』（11.2 大空社）
深井甚三氏（文学部卒・経済学研究科修了）共著
『富山県の歴史』（10.9 山川出版社）
星亮一氏（文学部卒）
『新選組を歩く』（11.5 光人社）
『大鳥圭介』（11.4 中央公論新社）
宮坂宥勝氏（文学部卒）共編
『仏教経典大鑑』（11.6 四季社）
『密教経典』（11.7 講談社）
山折哲雄氏（文学部卒・文学研究科修了）
『絆　いま、生きるあなたへ』（11.6 ポプラ社）
『法然と親鸞』（11.3 中央公論新社）
山形孝夫氏（文学部卒・文学研究科修了）
『治癒神イエスの誕生』（10.8 ちくま学芸文庫）
安村敏信氏（文学研究科修了）
『ワイドで楽しむ奇想の屏風絵』（10.10 東京美術）
山田史生氏（文学部卒・文学研究科修了）
『下から目線で読む『孫子』』（10.7 ちくま新書）
矢部良明氏（文学部卒）
『角川日本陶磁大辞典』（11.2 角川学芸出版）
屋山太郎氏（文学部卒）
『日本通－お国自慢・13の視点』（共著 10.12 育鵬社）

information

ご案内 1

第5回「青春のエッセー 阿部次郎記念賞」の作品募集中

東北大学文学部と阿部次郎記念館が主催する「青春のエッセー　阿部次郎記念賞」も今年で第5回となります。課題作品の部の課題は「希望」で、9月末日（当日消印有効）を締切として現在、全国の高校生・高専生に作品募集中です。

作家の森まゆみさん（ノンフィクション作家。地域雑誌「谷中・根津・千駄木」の編集、著作『鷗外の坂』などで知られる）をゲスト選考委員に迎え、10月に選考、11月3日の「紅葉の賀」において選考結果報告会を開くという予定です。

なお、2010年の第4回作品集は7月中旬に発行されました。返信用封筒に1冊につき120円切手（2冊なら240円）を同封して申し込みいただけば、送付いたします。

申込先　〒980-8576 仙台市青葉区 川内27-1 東北大学文学部 社会学研究室 長谷川公一

2010年11月3日に行われた第4回「青春のエッセー　阿部次郎記念賞」の選考結果報告会の様子

ご案内 2

有備館講座、齋理蔵の講座、リベラルアーツサロンの実施

文学部では、研究成果を地域に役立ててもらうために、市民公開講座を開いています。一つは宮城県北の大崎市岩出山町での「有備館講座」、もう一つが県南の丸森町での「齋理蔵の講座」です。

また、教育学部・法学部・経済学部・東北アジア研究センターとの連携により、参加者とともに議論しあう「リベラルアーツサロン」も開催しています（会場：東北大学附属図書館）。

有備館講座（第10期）　問合せ先☎0229-72-0357（大崎市岩出山文化会館スコーレハウス）

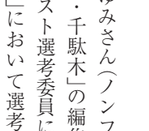
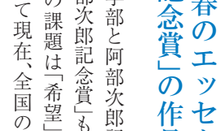
テーマ＜男＞と＜女＞
5月14日　高橋章則准教授「表現される遊女から表現する遊女へ～19世紀江戸吉原の世界～」
6月18日　佐竹保子教授「李清照と趙明誠～古典中国最高の女流詩人とその夫～」
7月16日　横溝博准教授「平安文学の＜男＞と＜女＞」
8月20日　大藤修教授「江戸時代の家と村における男と女」
9月17日　尾崎彰宏教授「西洋美術にあらわれた＜男＞と＜女＞」

齋理蔵の講座（第4期）　問合せ先☎0224-72-3036（丸森町教育委員会・生涯学習班）

テーマ＜男＞と＜女＞
6月4日　阿部恒之教授「見た目の違いと心の違い」
7月2日　小泉政利准教授「もろい男としぶとい女：ことばの認知脳科学」
8月6日　佐倉由泰教授「文学表現における＜男＞と＜女＞－真名と仮名をめぐって－」
9月3日　才田いずみ教授「“あたし”と“おれ”」
10月1日　斎藤倫明教授「日本語の語彙に見られる『男』と『女』」

リベラルアーツサロンの前期日程　問合せ先☎022-217-4977（東北大学広報課）

●6月10日　文学研究科・芳賀京子准教授
「美しきヒトのカラダ～ギリシア彫刻の裸体～」
●7月15日　東北アジア研究センター・高倉浩樹准教授
「極寒地で暮らす方法とは？～北極圏トナカイ遊牧民の知恵と技術から学ぶこと～」
●9月2日　国際文化研究科・宮本正夫教授
「認知科学としての仏教」



6月10日のリベラルアーツサロンで講演者となった芳賀京子准教授

ご案内 3

11月3日、例年どおり、東北大学植物園で「紅葉の賀」

文学部では2011年度もまた、例年どおり11月3日に、東北大学植物園にて東北大学市民オープンキャンパス「紅葉の賀」を開く予定としています。天然記念物にも指定されている植物園の植物や生物たちは、東日本大震災にも屈することなく、力強く生きています。今年度は、その生命力とふれあうことも大きなテーマとなるのではないでしょうか。

平成23年度 東北大学市民オープンキャンパス 紅葉の賀（予定）

［期日］
平成23年11月3日
（木曜・文化の日）
［会場］
午前の部
東北大学植物園
（午前9時～）
午後の部
文学部第一講義室
（午後1時30分～午後4時）
［主催］
東北大学大学院文学研究科・東北大学植物園

東北大学植物園公開（無料）　9:00 ～ 16:00

午前・昼の部	9:00 ～ 13:00	東北大学植物園
	9:00 ～ 13:00	俳句会（投句自由・嘱目吟）
	10:00 ～	オープニング・セレモニー
	10:00 ～ 13:00	野点
	10:30 ～ 11:00	尺八野外演奏
	11:10 ～ 12:30	植物園内ガイド付散策
午後の部	13:30 ～ 16:00	東北大学文学部第一講義室
	13:30 ～ 14:45	公開講演会 「辛酸、佳境に入る―東北を歩いて考えたこと」森 まゆみ（作家）
	15:00 ～ 15:30	青春のエッセー 阿部次郎記念賞 選考結果報告
	15:30 ～ 16:00	俳句会 授賞式

ご案内 4 附属図書館から

8月～9月、附属図書館で岩手県の「復興の狼煙」ポスター展
馬場龍一郎氏（文学部卒）の写真に注目

東北大学附属図書館では、9月25日まで1階ロビーで「復興の狼煙」ポスタープロジェクト展を開催しています。

このポスターは、岩手県釜石市のコピーライターたちが、東京のカメラマンの協力を得、釜石市・大槌町などの人々の姿を撮影した写真に、復興に向けてのメッセージを書くというスタイルで作成したものです（http://fukkou-noroshi.jp/）。作品は、未販売も含めてすでに40点弱。写真と言葉の圧倒的な力で話題になり、その販売の収益は撮影対象となった市町村に寄付されています。

実は、これは、文学研究科の阿部恒之教授が、東北大学防災科学研究拠点の活動に参加し（6P参照）、調査をする中で見つけたものであり、研究拠点の2回目の報告の中で紹介しています。そして、『考えること』vol.6巻頭で図書館長である野家啓一教授と対談した折りに話題にし、カメラマン・馬場龍一郎氏が文学部卒（考古学）であることから、附属図書館での展示会開催の運びとなったのです。

10月7日～11月5日、附属図書館創立100周年記念企画展「煌めきのコレクション～未来への贈り物～」

文学部を含む文系4学部の研究棟・講義室がある川内南キャンパスには、隣接して東北大学附属図書館があります。この附属図書館が創立されたのが1911年6月14日であり、2011年は創立100周年の年となります。

附属図書館では、これを記念してさまざまな記念イベントを行っており、10月7日からは、企画展「煌めきのコレクション～未来への贈り物～」と題し、図書館所蔵の多彩なコレクションの展示などを企画しています。

10月15日、川内萩ホールで附属図書館創立100百周年記念講演会

さらに東北大学附属図書館では、創立100周年の記念企画として、10月15日に記念講演会も開きます（13時30分～15時）。

薬学部卒で、工学研究科特任教授であった作家の瀬名秀明氏を講師に招き、東北大学創立百周年記念会館川内萩ホールを会場としての講演会です。タイトルは「科学と人間の未来、そして物語の力」。瀬名さんは、『ロボットとの付き合い方おしえます。』『世界一敷居が低い最新医学教室』などの著作で東北大学のロボット工学、医工学、脳科学等の研究も紹介しており、どんな内容の講演になるのか期待が高まります。

ご案内 5

11月19・20日、東北文化講演会で、柳田國男五十年祭記念シンポジウム「柳田國男と東北大学」開催

11月19・20日、川内北キャンパスの東北大学マルチメディアホールを会場に、東北大学文学研究科東北文化研究室が主催する東北文化講演会「柳田國男五十年祭記念シンポジウム」を開催します。

柳田國男（1875-1962年／兵庫県福崎町生まれ）は、東北地方の伝承を記録した『遠野物語』で柳田民俗学をスタートさせ、『蝸牛考』で方言論に方向性をつけるなど、多彩な業績を残しました。

没後50年を記念して福崎町の柳田國男50年祭をはじめ各地で記念イベントが開かれていますが、本シンポジウムでは、野家啓一教授（哲学）、鈴木岩弓教授（宗教学）、柳原敏昭教授（歴史科学）をはじめとする多くの講師が、東北大学と柳田とのかかわりや、柳田の業績の意義などを語り合います。